

## 力の限り最後まで！ 古道小マラソン大会2015

11月17日（火）、この時期にしては暖かく風もない、マラソン大会には絶好のコンディションの中、多くのみなさんの声援を受けながら、一人一人が自己ベストを目指して最後まで走ることができました。マラソンは、自分との戦いだとも言われます。開会式の中で次のような話をしました。

「マラソンをしていると、いつも心の中に2人の自分が現れます。あきらめようとする自分と、最後までがんばろうとする自分です。つらくて苦しい中で、2人が繰り返し現れてきますが、やっとの思いでゴールしたとき、いつも走りきってよかったと思います。今日のみなさんの心の中には、どんな自分が現れてくるのでしょうか。」

ゴールした子どもたち。息を切らしている子、汗まみれになっている子、涙を浮かべている子、…それぞれ表情は違っても、どの子もやりきったいい顔をしていました。一人一人がとても輝いていました。

たくさんのご声援をいただき、心より御礼を申し上げます。

**【入賞したみなさんです。※完走者全員へ記録証を渡します。】**

〈800m走〉

1年 男女 第1位 渡辺 蒼空 4分01秒	
2年 女子 第1位 吉田 百花 3分55秒	第2位 武田 佳奈 4分16秒

〈1200m走〉

3年 男子 第1位 菅野 祐希 4分50秒	第2位 吉田 脩平 5分10秒
女子 第1位 高橋 河和 4分50秒	第2位 渡辺 えま 6分03秒
4年 男子 第1位 吉田 隆人 5分10秒	第2位 加藤 徳馬 5分28秒
女子 第1位 添田 梨央 5分14秒	

〈1500m走〉

5年 男子 第1位 吉田 陽平 5分53秒	第2位 高橋 公太 6分45秒	第3位 本間蓮玖斗 6分47秒
女子 第1位 古河 愛琴 7分03秒	第2位 吉田 実里 7分08秒	第3位 門馬 聖楽 7分46秒
6年 男子 第1位 菅野 翔 5分42秒	第2位 遠藤 慧人 5分45秒	第3位 加藤 翔馬 5分52秒
女子 第1位 村越 陽菜 6分09秒	第2位 松本 亜海 6分19秒	第3位 宗像 七海 6分33秒



3. 4年生のスタートです



苦しくたって、スピードを落とすわけにはいきません



こども園からも応援に来てくれました



## 「田村っ子のルール10」は、人として生きていく基本でもあります！

子どもたちが「田村っ子のルール10」をしっかりと実践している友だちを自主的に表彰しました。全校生からの投票で決めたものです。「あいさつをしよう」、「ありがとうと言おう」、「相手の目を見て話そう」など、大人社会でも求められることです。

やらされるのではなく、子どもたち自身が大切であると感じて取り組んでくれたことを頼もしく思います。



## こども園のお友達がやってきました！

都路こども園のみなさんが先生や保護者のみなさんといっしょに小学校へ来てくれました。

ハロウィンのとてもかわいい衣装を身にまとい、すずらん坂を登ってきた園児たちを小学生もあたたかくお迎えしました。

わずかな時間でしたが、ほのぼのとしたやさしい時間が流れたひとときでした。

こども園のみなさん、ありがとうございました。

## ハロウィンのかわいい衣装を見てください



### 「巨大かぼちゃ」登場！

吉田 義四郎 様（古道・戸屋）からいただきました。

どのくらいの重さがあるのでしょうか。1人ではもちろん、おとなが2人でも3人でも持てず、4人がかりでやっと運びました。ハロウィンの時期に昇降口ホールに展示しました。子どもたちは、興味津々です。

### 『巨大かぼちゃ』の豆知識！

#### ◇ 世界記録は？

なんと「910kg」だそうです。日本一は、「508.4kg」です。

#### ◇ 超巨大かぼちゃの正体は？

「アトランティックジャイアント」と呼ばれるかぼちゃです。

#### ◇ 巨大かぼちゃは食べられる？

もともとは、家畜（かちく）の飼料用（えさ）、観賞用（飾って楽しむなど）に作られたかぼちゃなので、食用には向かないようです。

## 「ベルマーク教育助成財団」より寄贈！

次の教育備品をいただきました。子どもたちの教育活動に効果的に活用してまいります。

- ・ストップウォッチ
- ・デジタルカメラ
- ・冷蔵庫（理科等）
- ・デジタルレコーダー
- ・時計付き大画面タイマー
- ・電気まほうびん
- ・メモリーカード



たくさん使って、いっぱい勉強するぞ。

### 《コラム》 価値ある涙

9月21日（月）、三春町野球場で、ソフトボールスポーツ少年団の田村地区大会新人戦が開催された。準決勝、決勝と最終回に逆転勝ちしてブロック優勝を決めた古道チームは、県大会出場権を懸けた試合にも見事に勝利した。

試合終了の挨拶をしてベンチに戻ってくる子どもたちの目から大粒の涙がこぼれていた。一人一人がだれにも憚ることなく涙を流し、監督・コーチをはじめ、チームメイトや保護者の祝福を受けていた。

この子たちは、これまでにどれほどの涙を流してきたことだろうか。そして、これからも辛さや悲しさに耐えきれなかったり、叱られたりなど幾度となく涙を流す場面はやってくることだろう。

しかし、今日の涙のように、何かをやり遂げた満足感や達成感、成就感に満ちた涙を流す機会がどれだけあるだろうか。やり遂げたものにしか分からないこの涙の味をしっかりと噛みしめて、さらなる前進を続けてほしいと心から願った。

